

第 8 回日本 MIS_t 研究会（第 8 回関東 MIS_t 研究会合同）開催報告

第 8 回日本 MIS_t 研究会
第 8 回関東 MIS_t 研究会
会長 篠原 光

2017 年 2 月 25 日(土)・26 日(日)、東京にて第 8 回日本 MIS_t 研究会（第 8 回関東 MIS_t 研究会合同）を開催いたしました。25 日(土)には、本音会（症例検討会）を銀座 NB club で開催し、148 名のご参加を頂きました。また 26 日(日)は、場所を六本木に移し東京ミッドタウンにて本会を開催し、402 名のご参加を頂きました。開催 2 日間で延べ 550 名と過去最多の参加人数でありましたが、無事に終了致しましたのでご報告させていただきます。

2005 年に本邦で経皮的椎弓根スクルー(PPS)が導入されてから、10 年以上が経過しております。当初は限定的な使用でありましたが、この 10 年で PPS に始まった MIS_t は急速に発展しております。昨年日本 MIS_t 研究会会長である富田卓先生が示されたテーマ「To The Next Stage!」を受け継ぎ、これからは限られた術者が行う『MIS_t』ではなく、脊椎外科医の術式の選択肢の一つ『MIS_t』になるように、あらゆる壁を壊せるような研究会になればと考え、今回のテーマを「break the wall!」としました。脊椎外科の各分野から MIS_t 演題を募った結果、演題募集期間内で 74 題と多くの演題が集まり、非常に内容の濃い研究会となりました。また従来は症例検討会を温泉地で開催していましたが、今回多数の参加が見込まれたため、宿泊と症例検討会の会場をわける事になりました。宿泊温泉宿として、歴史ある水月ホテル鷗外荘（上野）をご用意しました。宿泊していただいた先生方には、明治の文豪・森鷗外ゆかりの鷗外荘で都内第一号の天然温泉を堪能していただきました。

初日の症例検討会は、オープニングムービーのあと、次期会長講演として小谷善久先生(製鉄記念室蘭病院)より「MIS_t と CAOS を融合した新しい脊椎脊髄手術への挑戦」で幕を開きました。最新の MIS_t 技術を提示され、MIS_t の更なる進化が期待される発表でありました。

特別講演では、西良浩一先生(徳島大学)より「アスリートの腰痛における低侵襲手術の役割～内視鏡手術と MIS_t の意義～」をご講演頂きましたが、学会講演とは一線を画し一歩踏み込んだ本音会にふさわしいご講演でありました。

メインの症例検討会では、新しい試みを取り入れました。全国から集まった 8 名の演者が、それぞれステージ上でスポットライトを浴びてヘッドマイクを使用しジェスチャーを交えながら、エンターテイメント性の高い MIS_t プレゼンテーションを行いました。白熱し

た議論の中、スティーブ・ジョブズに負けないプレゼンテーションを行った横須賀公章先生（久留米大学）が、**Best Encourage Award** に選ばれました。最後は、学閥の垣根を取り壊し、参加者全員で外国人歌手とともにステージに上がって往年の名曲を熱唱し、忘れられない夜となりました。

翌日は、東京マラソンと同日開催でありましたが、早朝に水月ホテル鷗外荘から六本木にある東京ミッドタウンへバスで移動したため、無事定刻通り本会を開催することができました。

二日目の本会は、オープニングシンポジウム『**脊髄刺激療法（SCS）最前線～疼痛治療の新戦略～**』で幕が開きました。今後『**MISt**』が、手術だけではなく保存療法も含め、真の意味での最小侵襲を追求していくこととなり、整形外科から大鳥精司先生（千葉大学）と石井賢先生（慶応大学）、脳神経外科から笹森徹先生（北海道大学）、麻酔科から大岩彩乃先生（東邦大学）の脊髄刺激療法（SCS）エキスパートによるシンポジウムが組まれました。アンケート調査によると、脊髄刺激療法未経験医師の割合が 9 割でありましたが、早朝より多数の先生方のご参加を頂き、関心の高さが窺えました。その後、2 会場に分かれ一般演題を開催した後、シンポジウム『**骨粗鬆症に対する MISt 治療の現状**』を行い、現時点での日本における MISt 治療は、どこまで可能となり、何が限界なのかといった熱い議論が繰り広げられました。

ランチョンセミナーでは初代日本 MISt 研究会代表である佐藤公治先生（名古屋第二赤十字病院）に、中部 MISt 研究会特注のハッピーを羽織りながら「日本 MISt の成り立ちから MISt の展望/MISt における透視画像と新技術フラットパネル」をご講演頂きました。佐藤先生による MISt への取り組みの歴史に感銘を受けるとともに新しいフラットパネルの有用性が認識できました。

特別講演 I として、ドイツより新進気鋭の Stefan Lakemeier 先生（Maria-Hilf Stadtlohn Hospital）を招聘し、「**Current Status of MISt in Europe**」をご講演頂きました。ヨーロッパにおける MISt の現状が明確となる素晴らしいご講演でありました。

特別講演 II として、種市洋先生（獨協医大）には、「私が考える MISt：脊柱再建の本質に迫る」と題して、mini-open TLIF の美しい動画、外傷に対する MISt、脊柱変形の低侵襲化をご講演して頂き、脊柱変形の立場から MISt 研究会に対する熱いメッセージを承りました。

リーダーズレクチャーとして、あらゆる脊椎分野からこれからの MISt を担う若手の先生方

～菅野晴夫先生（東北大学）、竹内大作先生（獨協医大）、佐々木寛二先生（聖隷浜松病院）、中尾祐介先生（三楽病院）、石原昌幸先生（関西医大）、原田智久先生（丸太町病院）～による、「次世代～俺の MISt～」を開催いたしました。久々に MISt 研究会らしい緊張感溢れる討議が行われ、最後を締めくくるにふさわしい、とても有意義なセッションとなりました。

本会は演題数が多く、時間がタイトであり、参加いただいた先生方にご迷惑をお掛けしましたが、一日を通してとても活発な討議が行われました。Best Presentation Award には、小野孝一郎先生（日本鋼管病院）の「MIS-TLIF, PPS 術後の隣接椎間障害に対する経皮的内視鏡手術成績不良例」、Best Discusser Award には松森裕明先生（市立東大阪医療センター）が選ばれました。また、先日の日本 MISt 研究会評議会にて、Best Paper Award 2016（和文）に伊藤康夫先生（神戸赤十字病院）、Best Paper Award 2016（英文）には松川啓太郎先生（自衛隊中央病院）が選ばれ、本会にて表彰となりました。

日本 MISt 研究会初の試みとして、看護師向けのハンズオンセミナーも開催致しました。113名の看護師に参加頂き、大盛況でした。コーディネーターである中西一夫先生、小島敦先生、小林俊介先生による綿密なプログラムと16名の講師による熱い指導で、参加者にとって非常に満足度が高いコースとなりました。

本研究会を盛会に終えることができたのも多数の先生方をはじめ、協賛の各メーカーの皆様のお力添えのおかげと存じます。ご参加いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

次回の第9回日本 MISt 研究会は、2018年3月18日（日）に製鉄記念室蘭病院 小谷善久先生の当番世話人のもと、第9回関東 MISt 研究会は2017年9月16日（土）に北里研究所病院 日方智宏先生の当番世話人のもと、開催される予定です。日本 MISt 研究会会員の皆様におかれましては是非ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

MISt 2017

1st & 8th Kanto region MISt region



MISt

第8回 日本MISt研究会
(第8回 関東MISt研究会 合同開催)

MISt_2017

MISt_2017

第8回 日本MISt研究会 合同開催
第8回 関東MISt研究会 合同開催
2017年11月10日(金) 18:00-20:00
会場: 東京ビッグサイト 東ホール



